

1. 略歴

1982年3月	東京大学文学部 I 類宗教学宗教学史学専門課程卒業
1982年4月	東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教学史学専攻修士課程入学
1984年3月	東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教学史学専攻修士課程修了
1984年4月	東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教学史学専攻博士課程進学
1987年9月	ブリティッシュ・コロンビア大学アジア学科大学院博士課程（カナダ・ヴァンクーバー）入学
1990年8月	東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教学史学専攻博士課程退学
1990年8月	筑波大学地域研究研究科文部技官、哲学思想学系準研究員就任
1993年4月	筑波大学地域研究研究科（哲学思想学系）助手昇進
1994年5月	ブリティッシュ・コロンビア大学アジア学科大学院博士課程修了
1995年4月	東京大学大学院人文社会系大学院宗教学宗教学史学研究室助教教授転任

2. 主な研究活動

a 専門分野

中国古代宗教研究、祖先崇拜研究、死生観研究

死者儀礼・祖先崇拜といわれる宗教現象を比較文化的視点から考察することを主たる目的とし、そのための基盤となる研究対象を中国古代に設定する。この問題関心は三層に分けることができ、まず、(A)古代中国の死ならびに死者（祖先）に対する観念と儀礼の背後にある宗教的宇宙観と救済論を明らかにし、(B)それを通して死ならびに死者にかかわる宗教現象の普遍的構造とメカニズムを理論化し、(C)更にそこから凡そ人間にとって死と死者が有する意味について、現代における状況を視野に含めて、考えることを目指している。

b 研究課題

具体的な研究課題は以下のように区分できる。

まず中国古代における祖先崇拜の研究（上記(A)）にかかわる分野として

- (1) 中国の殷周春秋時代の宗教現象を出土文字資料（甲骨・金文）を用いて分析し、その意味を考える。
- (2) 戦国・秦・漢時代の出土文字資料（簡牘・帛書・鎮墓文・画像石）を用いて、殷周時代の祖先崇拜が戦国時代以降の死生観と他界観に変化していく様態を明らかにする。
- (3) 殷周～隋唐時代における祖先崇拜・死者儀礼・他界観を全体的な宗教的宇宙観の中に位置づけることにより、“死者であること（死者性）”の基本的な在り方と変化を把握する。
- (4) 儒家を中心とする諸典籍を資料として用い、殷周時代の祖先崇拜に内在していた世界観が「孝」として思想的に昇華され、それが中国の基本的価値観・人間観の一つとなったことを考察する。

祖先崇拜の比較研究（上記(B)）の分野として

- (5) 中国古代の祖先崇拜と「孝」思想の分析によって得られた洞察を出発点として、祖先崇拜という宗教現象を比較文化的視点から検討する視座を用意する。
- (6) 世界中の諸文化に現れる祖先崇拜を具体的に検討することによって、祖先崇拜の本質的意味と可変性を明らかにする比較研究を行う。

死生観と死者性に関する研究（上記(C)）として

- (7) 諸宗教の死に関する儀礼や考えが表明している人間観や価値観は何であるのかを抽象化し、比較研究を行った上で、
 - (8) それを現代における死の状況や生命倫理と対照させ、現代の状況を客観的・批判的に捉える視座を用意する。
- この内、(1)(2)(4)(5)は従来からの問題関心であるが、2001年度発刊の著書の中で系統的に見解を述べることができ、かなりの成果を挙げた。(3)はその問題関心から派生してきた課題であり、現在最も中心的な活動になっている。また、この期間の研究の進展に伴い、上記(7)(8)という研究課題が次第に関心の中心を占めるようになってきている。

c 主要業績

(1) 論文

「現代的宗教性としての生命倫理——中国の事例を題材に」、『日台国際研究会議「東アジアの死生学へII」』（『死生学研究』特集号）、東京大学大学院人文社会系研究科、30-45頁、2010.11.30

「甘肅省天水放馬灘一號秦墓「志怪故事」註記」、谷中信一編『出土資料と漢字文化圏』、汲古書院、179-211頁、2011.3.31

‘Observing Chinese Excavated Materials from a Perspective of Life and Death Studies: “Image Reversal of the Dead” during the Zhanguo, Qin, and Han periods,’ Bulletin of Death and Life Studies vol.7, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, pp9-35, 2011

「儒教的生命倫理」における“伝統”——Juria Tao ed., China: Bioethics, Trust, and the Challenge of the Market (2008)を題材として、『日韓国際研究会議「東アジアの死生学へⅢ」』(『死生学研究』特集号)、東京大学大学院人文社会系研究科、15-37頁、2011.3.15

「中国の生命倫理」、今井道夫・森下直貴編『生命倫理学の基本構図』(シリーズ生命倫理第1巻)、丸善、138-149頁、2012.1.31

「生命倫理と宗教——エンゲルハート再考」、日台国際研究会議『東アジアの死生学へⅣ』(『死生学研究』特集号) 特集号、東京大学大学院人文社会系研究科、129-141頁、2012.3

(2) 学会発表

XXth Quinquennial World Congress of the International Association for the History of Religions パネル “Appropriation of the Western Concept of “Religion” in Asian Cultural Traditions,” 企画・司会。University of Toronto, Canada, 2010.8.20

“The acceptance of the concept of “person” and the tradition of Confucianism in modern China: through bioethical discourses as modern religiousness,” XXth Quinquennial World Congress of International Association for the History of Religions, University of Toronto, Canada, 2010.8.20.

“Many Coexisting Gods, or One God with Many Names?: the Representation of the Supreme Deity in Ancient China,” 国際シンポジウム “Monotheism Characteristics in Asian Religions,” 2010.8.30

「儒教的生命倫理」における“伝統”——Juria Tao ed., China: Bioethics, Trust, and the Challenge of the Market (2008)を題材として、東京大学文学部 GCOE プログラム「死生学の展開」・成均館大学校共催日韓国際学術会議「東アジアの死生学へ」、2010.11.20

「東アジアの文化と現代の死生観——岸本英夫と傅偉勳の事例に見る宗教学者の死」、PESETO (北京・ソウル・東京) 三大学人文学会議、2012.3.24

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

國學院大學非常勤講師、2004.4～。慶應義塾大学、2009.3～2011.4。

(2) 学会

日本宗教学会、理事。中國出土資料學會、理事。東方学会、評議員。

(3) 行政

東京大学医学部倫理委員会委員、東京大学医学部附属病院臨床試験審査委員会委員、東京大学医学部附属病院法的脳死判定委員会委員。